



ふじつか広場の藤棚(5/12)

『目には青葉、山ホトトギス、初鯉』
街路樹の青葉が目まぶしく、風薫る季節となりました。
子どもたちも、進学・進級から1ヶ月がたち、自分たちの学級だという意識が芽生えてきたように思います。
過日(5/6)の引き渡し訓練ではご協力ありがとうございました。地震を想定しての避難訓練、子どもたちは静かに迅速に避難することができました。その静けさは、二幼の子どもたちの声が間近に聞こえるほどでした。3月のような体験は二度とたくありませんが、その体験が生きていたことがわかります。子どもたちにとって、体験・経験は何事にも代え難い学習です。それを活かした子どもたちはすばらしいと思います。学校という小さな社会で、子どもたちはいろいろな体験をしています。この体験を、外の世界で試す一つの機会が遠足でした。10・11日、1年生から4年生は遠足に行ってきました。天候はいまひとつでしたが、各学年とも発達段階に応じた学校ではできない経験をすることができました。



おいしかったお弁当(4年生)

私が一緒に行った4年生の様子を紹介します。
バスの中では、イベント係が中心となってレクリエーションが繰り広げられました。マイクの声は適当な大きさに、一人一人が参加できるように心を配っている様子がありました。マイクを通して変な声を上げることや、友だちが話しているときに揶揄を入れたりガヤガヤすることもなく、聞いていてとても心地よいものでした。これは、前もって学級で話し合われたことが生きていたからだと思います。バスガイドさんの出る幕はありませんでした。また、お弁当を食べているときも会話を楽しみ、その会話がさらにお弁当をおいしくしているようでした。決められた時間の間、立ち歩くことなく、動いているのは写真を撮っている先生たちだけ。日頃の給食の時間の約束事がきちんと守られているようでした。国立歴史民族博物館の中ではグループごとに見学し、グループの仲間を互いに思いやり、

走ることなく静かに見学することができ、公の場でのマナーや班で行動する時の約束が実践されていました。

このような様子は、4年生だけでなく他の学年も同様に見られたことと思います。学校での学習が校外に出て実践し自分のものにする、これを繰り返し確実なものにしていく、このような体験は大切なものです。失敗することもあるでしょうが、その失敗を反省し次に生かすこともできるに違いありません。

今後、5年生は宿泊学習、5・6年生は陸上記録会など校外の体験の場が続きます。ぜひ、日頃の学習を生かしてきてほしいと思います。

自分の名前を呼ばれたら大きな声で返事をする

大勢が集まったときには、私語をしないこと

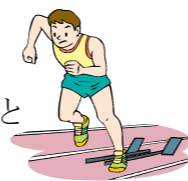
「ありがとうございます」「こんにちは」などはっきりした声であいさつをすること

班活動をするときには、全員がいやな思いをしないように心を配ること

時間を守ること、などなど。

1年生から4年生の子どもたちも、次の校外学習では遠足以上の態度で過ごすことができるでしょう。それが学校という小さな社会を出たときに役立つ力だと考えています。

そのためにも、私たち教職員は学校の規律を守ることを教えていきたいと思っています。



新学習指導要領スタート (No.1)

平成23年度から、小学校では新学習指導要領が完全実施されます。教育の理念は昔から変わるものではなく、子どもたちが将来生きていく上で必要な力を身につけさせることです。しかし、子どもたちを取り巻く環境が変化しており、その時代に応じた教育は大切です。内容が大きく変わったのではなく、力点を入れるところが違っていると解釈していただければと思います。

下の文は、文科省作成リーフレットの一部分です。

生きる力を育むために、子どもたちの未来のために。
新しい学習指導要領は、子どもたちの現状をふまえ、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。これからの教育は、「ゆとり」でも、「詰め込み」でもありません。次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「生きる力」を身に付けてほしい。そのような思いで、新しい学習指導要領を定めました。
「生きる力」を育むためには、学校だけではなく、ご家庭や地域など社会全体で子どもたちの教育に取り組むことが大切です。
子どもたちの未来のために。 新学習指導要領、スタート。
「生きる力」とは、知・徳・体のバランスのとれた力のこととしています。
○基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力【知】
○自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性【徳】
○たくましく生きるための健康や体力【体】

今月は、【知】の部分についてどのように取り組んでいるかを紹介します。

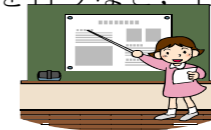
新しい教科書を手にとられて、感じたことはありませんでしたか。今までの教科書より平均で25%ページ数が増えています。授業時数も6年間で約1割増加しました。

新しい小学校教科書で充実した内容の例として

- 説明、報告、紹介、討論などの言語活動(国語)
- ことわざや慣用語(国語)
- 実生活・実社会と関連付けた課題・題材(理科)
- 観察・実験(理科)
- 算数的活動を重視した課題(算数)
- 練習問題や補充問題(算数)
- 縄文時代の文化(社会)
- 47都道府県、主な国の名称と位置(社会)
- 裁判員制度(社会)

教育内容改善のポイント

- 言語の力をはぐくみます
国語をはじめ各教科等において、知識・技能を活用してレポートの作成や論述を行うなど、言語の力を高める学習



- 理数の力をはぐくみます
算数では、大切な内容を反復(繰返)して学習
観察・実験を充実(理科)



- 外国語教育を充実します
あいさつや買い物、子どもの遊びなどの身近なコミュニケーションの場を設定して外国語を聞いた話ししたりする音声面の活動

- 伝統や文化に関する教育を充実します
国語では
親しみやすい古文や漢文の音読をすること
(小学校5・6年生)
社会では
世界文化遺産や国宝などの文化遺産を取り上げる歴史学習(小学校6年生)
音楽では
教材として扱う唱歌(「春が来た」「もみじ」「ふるさと」など)の曲数を増加

二小の取り組み

- ・作文やレポート、意見文などを書く機会を増やす。
- ・「ノートに書く」ことを大切にし、自分の考えや友だちの意見が入ったノートづくりを目指す。
- ・3年生以上は国語辞典を活用し、語彙を増やす。
- ・毎月計算力テストを実施し、合格するまで繰り返す。
- ・新しい単元に入る前に必要な内容を確認し、授業や家庭学習で定着を図る。
- ・理科支援員が配置され、5・6年生の実験準備や支援を行う。
- ・水曜日(5年生)・木(6年生)曜日に外国語活動の時間を設置し、担任とALT(マリル・タンシオ先生)で指導する。
- ・音読(リズムカルに読む)ことを大切にし、低学年から声に出して読むことを習慣づける。
- ・校舎内に『声に出して読もう』コーナーの設置や新聞記事等を掲示し、常に子どもたちの目に触れるようにする。
- ・二小の音楽の質の高さを継続させ、唱歌に親しむ機会を設ける。
(授業や掲示物を通して)

「学び方ガイド」を各家庭におわけします。学習について、家庭学習についてなどいろいろまとめてありますので、一度、お子様と一緒に読んでみてください。